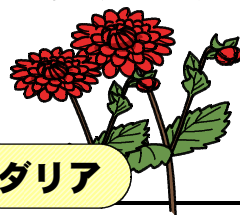




# ちくさ咲く みち



## 子どもの頃の「夢の職業」につけた人の割合は？

校長 花生 典幸

だれしも子どもの頃には、将来なりたいと希望する「夢の職業」があったと思います。さて、保護者のみなさんは、現在その職業に就いているでしょうか？（かく言うわたしも……もちろん就けていません）

世界各国の約10万人を対象にしたある調査によると、「**夢の職業**」に就けた人の割合は、**全体の約【9パーセント】**という結果だったそうです。夢の実現は、なかなか難しいということでしょうか。



夢とは異なる職業に就いたと回答した人のうち、半数近くは、その理由に「成長するにつれて、違うことに興味をもつようになったから」と答えたそうです。また、15パーセントの人は、「その仕事に就くのが難しすぎる。お金がかかりすぎる」として、しかたなくあきらめたケースだそうです。

これらの結果から、だから「将来の夢」をもつことはあまり意味がない、と考えるのは早計に過ぎます。わたしはむしろ、だからこそ、**子どもたちに夢をもたせることには価値がある、大事なんだ**と考えたいと思います。

**夢をもつことは、子どもたちにとって、ある意味〈やりがい〉や〈励み〉をもたらし、自分を信じて前に向かって歩いていく際の大切なエンジンになります。**

2022年に、ベネッセ教育総合研究所が行った、子どもたちの将来の夢についての調査によると、結果は次のようになっています。

I 「将来なりたい職業（やりたい仕事）がある」と答えた子ども

小学4～6年男子	58%	小学4～6年女子	73%
中学1～3年男子	42%	中学1～3年女子	57%

II 「小学校6年生の将来なりたい職業ランキング」

【男子】	①スポーツ選手	②研究者	③ゲームクリエイター
	④IT関係	⑤建築家	
【女子】	①漫画家・イラストレーター	②教員	③医師
	④動物・遊園地の関係	⑤看護師	

小中ともに、男子より女子の方が夢をもっている率が高く、学年が進むにしたがって、より“現実的（地に足が付いた）”な考え方をするようになる、そんな傾向がうかがえるように思います。

上の調査の最後に、「保護者ができる支援」として、次のようなコメントが載せられていました。

…… 将来の目標をもつことは、子どもの日々の学習意欲の源になります。**早い時期から自分の将来について考える習慣をつけることで、中学3年生や高校3年生などの受験勉強や進路選択にプラスになります。子どもが将来について考えるきっかけをつくることは、子どもが将来の展望を描く上で、大きな手助けになるのです。**……

ぜひ保護者のみなさんも、日頃からご自分の仕事の話をしたり、外で出会った人やテレビ番組などを題材にして、さまざまな職業があることを伝えてみることをお勧めします。この三年間、折にふれてわたしがみなさんをお願いしてきた「**キャリア教育**」の推進の、まさしく本丸にかかわる部分だからです。よろしく願いいたします。